

## ICTインフラ地域展開戦略検討会（第2回）議事要旨

### 1. 日時

平成30年4月3日（火）16:30～18:00

### 2. 場所

総務省8階第1特別会議室

### 3. 出席者

#### （1）構成員

岡座長（住友商事株式会社名誉顧問）、谷川座長代理（東京藝術大学客員教授）、飯泉構成員（徳島県知事）、岩浪構成員（株式会社インフォシティ代表取締役）、江田構成員（一般社団法人世界経済フォーラム Japan エグゼクティブコミティメンバー）、國領構成員（慶應義塾大学総合政策学部教授）竹中構成員（北海道上士幌町長）、田澤構成員（株式会社テレワークマネジメント代表取締役）、玉川構成員（株式会社ソラコム代表取締役社長）、林構成員（株式会社ゲオネットワークス代表取締役）、室井構成員（福島県会津若松市長）、山本（龍）構成員（群馬県前橋市長）

#### （2）総務省

坂井総務副大臣、小林総務大臣政務官、鈴木総務審議官、今林国際戦略局長、山田情報流通行政局長、武田官房総括審議官、吉田官房総括審議官、古市電気通信事業部長、竹内電波部長、竹村事業政策課長、杉野移動通信課長、吉田地域放送推進室長、稲原地域情報政策室長、中里新世代移動通信システム推進室長、坂入ブロードバンド整備推進室長

#### （3）オブザーバー

古川様（株式会社NTTドコモ取締役常務執行役員代理）、内田様（KDDI株式会社取締役役員専務）、上村様（ソフトバンク株式会社渉外本部 本部長代理）、高美様（東日本電信電話株式会社取締役兼経営企画部長）、伊藤様（西日本電信電話株式会社取締役兼経営企画部長）、田口様（株式会社ジュピターテレコム常務執行役員）、林様（一般社団法人日本ケーブルテレビ連盟専務理事）、田村様（一般社団法人日本ケーブルテレビ連盟無線利活用委員会委員長）

### 4. 配付資料

- |       |                |
|-------|----------------|
| 資料2-1 | 前回の議論の取りまとめ    |
| 資料2-2 | 自治体悉皆調査の結果について |

資料 2-3	岩浪構成員提出資料
資料 2-4	田澤構成員提出資料
資料 2-5	玉川構成員提出資料
資料 2-6	飯泉構成員提出資料
資料 2-7	N T T 東西提出資料
資料 2-8	ケーブルテレビ連盟提出資料
資料 2-9	竹中構成員提出資料（意見交換用補足資料）
資料 2-10	今後の検討の進め方について（案）

## 5. 議事要旨

### ① 事務局説明

資料 2-1 及び資料 2-2 に基づき、事務局から説明が行われた。

### ② 構成員からのプレゼンテーション

資料 2-3 に基づき岩浪構成員から、資料 2-4 に基づき田澤構成員から、資料 2-5 に基づき玉川構成員から、資料 2-6 に基づいて飯泉構成員から発表が行われた。

### ③ オブザーバーからのプレゼンテーション

資料 2-7 に基づき東日本電信電話株式会社及び西日本電信電話株式会社から、資料 2-8 に基づき一般社団法人日本ケーブルテレビ連盟から発表が行われた。

### ④ 意見交換

構成員等からの意見は、以下のとおり。

（谷川座長代理）

本日のプレゼンテーションでは多くの方々が、地方で実験を行うことが一番効果がわかりやすいと言われていたと認識。この検討会において、面白い方向性を出していきたい。

（江田構成員）

今週から世界経済フォーラムの日本代表に就任した。同フォーラムでは、官民のパートナーシップを通じ、課題先進国と呼ばれる日本においても力強く活動を進めていきたい。5G が世界に先駆けて商用化される我が国が、技術によって課題を解決していく。そのような世界を作るため、投資対効果 ROI が見えるようにしてもらいたい。これは、金銭的なもののみならず、いかに早く技術を導入し、学習を生むか、あるいは、いかに早く規制や法整備に貢献するかなど、多角的であるべき。

(國領構成員)

目標を正しく設定することは重要であり、現在、人口カバー率で物事を考えているが、自動運転であれば、道路を全てカバーし、アグリであれば、農地を全てカバー、もしくは、全国土をカバーするということなどを考慮しなければ、林業等を含めた検討は行えない。地方の状況が厳しいことを考えれば、想定する利活用のイメージにおいて大事なものは、コストパフォーマンスに配慮することであり、例えば、玉川構成員がプレゼンテーションにおいて言及した、ゲートウェイの共用、地域 BWA の活用、PS-LTE を開放といった具体的な施策を総動員しながら、これらがどう実現できるか具体性を持ってイメージを固めていかなければならない。

(竹中構成員)

(資料 2-9 に基づいて説明) これから地方創生を加速させるためには、ICT 基盤の整備や、高度な次元での利用環境の整備が必要。上士幌町は大規模な酪農地帯であり、ICT・AI を用いて乳牛の発情期を的確に把握する等している。このような取組みには、5G 等の通信環境が必要である。また、今、若手農業従事者から、光ファイバーの敷設について強い要望を受けている。

(山本(龍)構成員)

飯泉構成員がプレゼンテーションで言及した、課題が見えている地方において 5G の実証を行ってから、東京に展開するという意見は大いに賛同。高齢者の介護や、農作物の世話といったルーティンワークから、新しいクリエイティブな人間性を回復するといった、機械の前から人を解放するチャレンジと考える。田澤構成員がプレゼンテーションで言及した、地方の古民家等を改修し、プロジェクトのためにビジネスマンに使ってもらおうといったような活動は数多く試行できると思う。前橋市は社会課題が山積しているが、5G によって社会課題を解決するショーウィンドウになってみせたい。

⑤ 今後の検討の進め方について

資料 2-10 に基づき事務局から、アドホック会合を立ち上げることについて説明が行われ、アドホック会合において具体的な検討を行っていくことが了承された。

⑥ 坂井副大臣挨拶

以上